



一般社団法人すまいの未来研究機構

# 空き家対策

# 住教育プログラム

# のススメ

空き家問題を自分事・地域事として考えよう

Ver.0.0

©2024 一般社団法人すまいの未来研究機構



## 目次

|  |    |
|--|----|
| すまい研の理念 .....                              | 1  |
| 空き家対策住教育プログラムの理念.....                      | 1  |
| なぜ、いま、空き家問題なのか.....                        | 3  |
| すまい研が考える住教育プログラム.....                      | 5  |
| 人と住まいの関係をみつめる .....                        | 5  |
| なぜ、いま、空き家問題なのかを理解する .....                  | 6  |
| 通年プログラム ～自分たちでできることを考える・地域とのかかわり方を考える～...9 |    |
| 空き家が生まれ変わる過程と姿を体験する .....                  | 14 |
| 考えをまとめて発表する・議論する・共有する.....                 | 16 |
| 担い手としての若者の可能性.....                         | 18 |



# すまい研の理念

一般社団法人すまいの未来研究機構（通称：すまい研）は、阪神淡路大震災の経験を経て、人々の住まいに関する安心感の確保の重要性を再認識し、住まいの耐震性に着目した建物診断の仕組み「フェニーチェパック」の開発に取り組みはじめました。

それがすまい研としての大きな一歩となっています。

フェニーチェパックの取り組みの中で、様々な住まいとの出会いがありましたが、特に多かったのが老朽化した住まいでした。既に人が住んでいない空き家もありました。

住まいは人が住んでこそ、その機能が発揮できます。

住まいは自らで自らをメンテナンスできません。

すべては人の手によるものなのです。

すまい研は、人と住まい、そして、地域と住まいの間に立ち、それらをつなぎ、後押しすることにより、人と住まい、地域と住まいの関係をより良好な関係とすることによりまちづくりにつなげていく。それを理念としています。

# 空き家対策住教育プログラムの理念

すまい研のメンバーも、そして多くの仲間たちも住まいに関わる仕事をしていますが、大学で建築学科などの住まいに関わる学部学科を卒業した者以外は、教育課程において、住まいに関する学びは何一つありませんでした。

建築士や宅建士など、資格を取得するために専門知識は学びますが、「住まいをかうこと、住むこと、住まいと人との関係」として「住まいの価値」について、真剣に考える機会もありませんでした。

しかし、住まいとは、日本国土の多くを占めている土地利用です。

日本の景色の大部分を占めています。

そして、人々の暮らしの時間の多くが流れている空間でもあります。

住まいがこの世に誕生するのは、人間の都合です。そして、大切に長く住まわれるのか、早くして空き家となって老朽化していくのか、などの歩み方は、人間の都合に左右されます。

そのような住まいと人との関係について、住まいに住んでいるという自覚を持つ年代になった際には、きちんと学び考える機会が必要だと強く思うのです。

空き家問題については、建築的知識や技術、不動産取引の知識、金融や税務の知識など、実際に事業として取り組もうとすると、様々な知識や技術が必要です。

しかし、それらの知識を習得する前に、上記したような人と住まいの関係や、なぜ、いま、空き家問題を考える必要があるのかの理由を理解することが大切だと考えています。よって、プログラムの対象となる学部学科は問いません。

そのような思いから、すまい研では、地域の大学生とともに古民家の再生と利活用の取り組みをはじめ、座学や古民家を会場としたイベントの開催、改修工事体験などを試行錯誤で行ってきました。

本書では、それらの成果を取りまとめています。他地域でこのような取り組みを始めようとされる方達の参考になれば幸いです。



# なぜ、いま、空き家問題なのか

人と住まいの関係は、一つの空間の中で日常の時間を過ごすため、特段意識されることなく生活が営まれています。

世帯の数だけ住まいがあり、その住まいは人間と同じ年月、またそれ以上の年月の間、存在し続けます。

一方、日本の世帯数は、2018年をピークに減少し続けると予測されています。

既に、地方部を中心に世帯数は減少し始めています。

住まいに居住する世帯数が減少しても、一度建てられた住まいは、除却されるまでそこに存在し続けます。

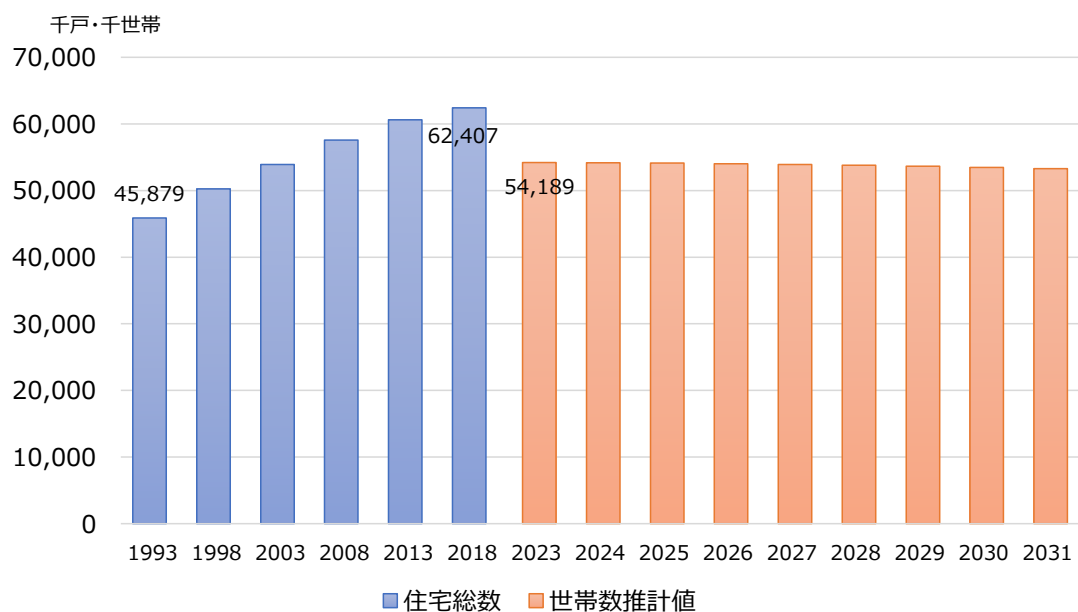
住宅は存在し続ける、世帯が減少する。

つまり、空き家は発生してしまうのです。

世帯数はこれから減少し続けるとすると、住宅の新規共有をストップし、世帯の減少と同じスピードで空き家となった住まいを除却しない限り、空き家は発生するのです。

## 空き家が増えることは悪ではない 空き家が増えることを前提に問題の顕在化を防ぐ

住宅の数は減らない 住宅に住む世帯数は減少していく  
空き家がでるのは仕方がない 如何にして問題の顕在化を防ぐかが問題



もし、その増え続ける空き家が、きちんと管理されずに老朽化や腐朽破損が進むと、地域の景観が悪くなります。

さらに、放火や犯罪の温床になることもあり、老朽化が進むと倒壊の恐れもあり、地域の住環境に大きなダメージを与えます。

景観が悪い、治安も悪い地域は魅力がなくなり、そこに住もうとする人も減少し、さらには地域の資産価値の減少にもつながります。

リノベーションなどで再生・利活用できるものは良いのですが、それができない空き家も多く、再生利活用だけではこの問題は解決できません。

つまり、地域の空き家問題は、他人まかせ、所有者まかせではなく、自分事、地域事として捉えていく必要があるのです。

しかし、これは簡単なことではありません。

よって、今、空き家問題をあらためて見つめなおし、これからの地域を担う若者達に問題意識を持ってもらい、行動に移していくことが大切なのです。





# すまい研が考える住教育プログラム

## 人と住まいの関係をみつめる

人間は、唯一無二の存在としてこの世に生を受けます。そして、それぞれの家庭環境や教育環境などにより、異なった人生を送ることになります。

では、住まいについて考えてみましょう。住まいは自らの意志でこの世に誕生するわけではありません。人間の需要によって誕生します。誕生した住まいは、まったく同じものは存在せずに、人間と同様に唯一無二の存在なのです。

その住まいは、所有者や居住者の住まい方や管理の仕方によって、極めて類似した仕様や環境にある住まいでも、異なる姿になっていきます。

大切にされてきた住まいは市場性を持ち続け、人が住まわなくなり手入れが行われなくなると、老朽化していきます。

この世に唯一無二の存在として生まれてきた住まいは、人間の愛情一つでいろいろな姿に変わっていくのです。すまい研では、空き家の問題を考える際、この人と住まいの関係を伝えることを第一歩と考えています。

## 空き家になることは家のせいではない 人間のせい

人間と同じように唯一無二の存在として、人間の都合のより誕生した住宅は、人間の都合や管理の仕方によって築年数が経ってもきれいな状態であったり、腐朽破損がおこったり。すべては人間のせい。人間が責任を持って管理することが当たり前の世界へ。



## なぜ、いま、空き家問題なのかを理解する

すまい研が実施している住教育プログラムは、主に地域及び近隣の大学生を対象としています。

興味がある大学生は、古民家を活用したワークショップなどに積極的に参加しますが、なぜ、空き家問題が社会的な問題として取り上げられているのか、なぜ、このような空き家を活したワークショップなどを開催しているのかの本質的な意味については十分に理解していないことが大半です。

しかし、座学による学びだけでは、空き家問題に触れる切欠としては弱く、実際に空き家に触れて、その空き家が地域の中でどのような位置づけにあるのか、今後どのような家の人生を送って欲しいのかを考えることが、空き家問題を真剣に考える切欠になると考えます。

よって、触れることができる空き家がある場合には、座学による学びと空き家活用に関するワークショップを同時並行として行うことを基本と考えています。

### <具体的な取組み>

すまい研では、古民家の空間を活用した様々なイベントを5日間にわたり開催し、その最終日に、本プログラムに即した一般公開座学を実施した。

参加者は、大学生が多くみられたが、地域からの参加者も多数来場された。

このイベントでは、3つの大学が参加し、明石市材木町にある古民家を対象として、地域との関係性を考えながら古民家の利活用を考え、その結果を古民家内に展示し、来場者に説明を行った。

また、古民家の各室では、様々な展示・イベントが開催され、地域に広く開放された。最終日には、公開座学講座が開催され、学生を含め地域の方々が参加している。

### <公開座学の内容>

方法：座学／1時間講義、1時間意見交換

内容：空き家は不動産である

空き家が増えることは悪ではない、管理されている状態をつくろう

人間と家の一生

地域の役割がなぜ重要なのか



講師：一般社団法人タガヤス 代表理事 小沢理市郎

<プログラムの様子>

この事業は文化庁の地域文化財総合活用推進事業の補助事業です。  
この事業は明石市文化財保存活用地域計画に基づく事業です。  
この事業は、国土交通省の令和5年度空き家対策モデル事業の採択事業です。

古民家再生プロジェクト!

# 明石旧船町文化祭

入場無料

築100年の古民家で  
歴史に触れて楽しむ!  
イベント目白押しの5日間!

**11月18日 土**

- おもちゃボードゲームイベント「木のおもちゃこころ」
- カードリーディング【高森里香】
- 花数秘占い【井上妙子】
- スマイルウクレレ部 演奏会
- WS「この「明石旧船町の家」について、お話しします」
- あかし歴史のまち文化財ウォーク

**11月19日 日**

- まち研イベント/プロダクトデザイン学生展示等
- WS「まちづくりアカデミー in 材木町」を振り返って
- ふすま・障子の張替え体験
- カードリーディング【高森里香】
- 花数秘占い【井上妙子】
- スマイルカラーワークショップ【堀川寛子】

**11月23日 木**

- WS 明石旧船町の家 文獻を紐解く
- おもちゃボードゲームイベント「木のおもちゃこころ」
- カードリーディング【高森里香】
- 花数秘占い【井上妙子】
- スマイルウクレレ部 演奏会

**11月25日 土**

- 明石市文化財実行活用実行委員会主催 WS
- 明石ヘリテージまち歩きの話
- 古民家で発掘! 眠っていたレコード鑑賞会

**11月26日 日**

- まち研/プロダクトデザイン学生イベント
- WS「『なぜ今空き家なのか』を語る」

2023年  
**11月**

**18日 sat** **19日 sun** **23日 thu** **25日 sat** **26日 sun**

**会場** 予約不要! 全日10時~16時  
**明石旧船町の家**  
明石駅より徒歩5分

受付入ってすぐ!

主 催：一般社団法人 すまいの未来研究機構  
神戸芸術工科大学 KDU まちづくり研究  
共 催：明石文化財活用推進実行委員会  
後 援：明石市  
問い合わせ：info@sumaiken.jp

イベント情報随時更新!

〒673-0893 兵庫県明石市材木町 6-21  
※上記の内容は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。





## 通年プログラム ～自分たちでできることを考える・地域とのかかわり方を考える～

すまい研では、知識を学ぶことや技術を身に着けることだけではなく、自分で考えることを重要視している。

土地や建物に関する専門的知識や、改修技術などについては、今習得しなければならないことではなく、私たちすまい研から学ばなくてはいけないことでもない。

しかし、この瞬間に空き家が目の前にあり、所有者がなんとかしたい、と考えているシチュエーションに出会うことは頻繁にあることではない。

そのようなシチュエーションに出会ったならば、空き家という空間にもう一度命を吹き込むためにはどうすればよいかを考えることをプログラムの中に盛り込んでいる。

そして、状況が許されるのであれば、その考えを実践に移す機会を設けていく。

- 天文町についてまずは、地域について学生と一緒に、地域のことをよく知っている地元の方をよんでセミナーを開く。
- 街歩きを実施。



- 学生により、活用提案を検討してもらう。



- 学生によるイベントを開催。まずは、滞在して、地域の方との交流を促す。
- 神戸芸工大の学生によるアートイベントを開催。

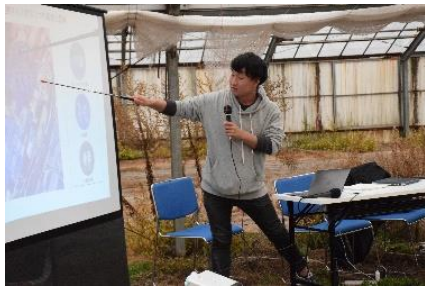




- あわせて、地域の魅力を学生に発見してもらう活動も行い、それについてワークショップを行う。



- 黒田では、地域の方と街歩きを行う。
- ビニールハウスを活用して、学生にイベントを開催することを企画させる。





- 一般の方も交えて、この地域についての特性などを、大学生や専門家に発表いただき、意見交換を行うセミナーを開催する。
- 夜は、交流会も開催して、地域との交流を深める。



- 継続した地域での活動を行い、竹を伐採する活動なども行う。



- 定期的に、人材育成について、企業や官公庁の方々と交えて発表会なども開催する。



- 黒田では、学生に、地域の問題である、竹をつかったイベントや構築物を開催するアートイベントを行い、地域の方との交流を継続的に行う。





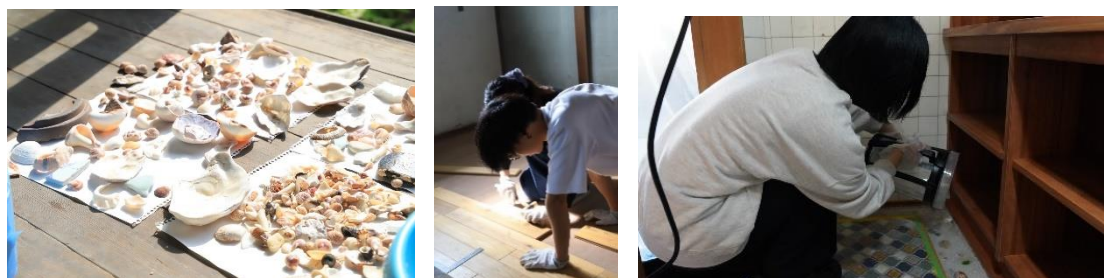
- どういったイベントや構築物をつくったらいいかを、すまい研メンバーと学生でワークショップをしながら議論を深める。



- 材木町では、まずは、大学生と街歩きをしながら、空き家の掃除を一緒に行うところから始めて、いろんな発見を彼らに促す。



- 地域との交流や街歩きの中から、改修におけるコンセプトアイデアや、改修工事のデザインなどの発想を生み出してもらい、それを実現化できるようにすまい研がサポートする。また、大学生にも実際に作業をしてもらうことで、地域やまちに愛着をもち、また、まちづくりを体験する思いをもってもらおう。



### うみのサイクル

住民を巻き込んで環境問題に取り組む機会を、地域の人が多く集まる場所である公民館からその環境で学び始めるよう提案する

公民館の用途は、強が低くあることから利用している人が多くいる。また、暖房として「湯中温」が広くあることから、高齢人や障がい者が利用しやすい。また、公民館の多くは暖房が広く、多様な用途がある。そこで、公民館をより人が集まる場所にするためのアプローチ、環境問題に取り組む機運を通じた湯へのアプローチから、地域の人と公民館との交流を促す提案を行う

**湯へのアプローチ**

- 湯へのアプローチとして、湯中温の湯を、湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。
- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。
- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。

**湯中温の湯の中に入れる**

- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。
- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。
- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。

**湯中温の湯の中に入れる**

- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。
- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。
- 湯中温の湯を湯中温の湯の中に入れる。

### 提案-A グループ案



エントランス風景パース  
入り口から入ると自由に使える机や椅子などがより気軽に利用できる



中庭に続く開く風景パース  
窓が広がった、外を眺めてリラックスすることができる

### 古民家大倉

古民家を再生して地域の人々が集まる場所にするための提案。再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。

再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。

再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。再生した古民家を地域の人が集まる場所にするための提案。

### 案B-グループ案



新鮮のカウンター風景パース  
誰でも気軽に立ち寄りやすいカウンター。従業員とお客さんが会話を楽しめる料理を注文できる空間



中庭の風景パース  
小さなドッグランのような場所。ここで写真を撮ったり犬同士が遊べる空間になっている

### neighborhood

地域の活性化を促すための提案。地域の活性化を促すための提案。地域の活性化を促すための提案。

地域の活性化を促すための提案。地域の活性化を促すための提案。地域の活性化を促すための提案。

地域の活性化を促すための提案。地域の活性化を促すための提案。地域の活性化を促すための提案。

### 提案-C グループ案



「展示された作品を見て楽しむ人々」並ワークスペース



「食を囲って交流する人々」中央キッチン



## 空き家が生まれ変わる過程と姿を体験する

すまい研では、所有者の承諾を得たうえで、具体的な空き家を教材として、自分たちでできることを考え、空間の利用の仕方を考え、自らの手で修繕を行い、再生の過程を体験するプログラムを実施している。

それに加えて、空き家が再生され、そこで経済活動や人々の生活が営まれている事例を体験することを重要視している。

### <具体的な取組み>

#### 空き家再生ワークショップ

すまい研が地域の空き家を手配し、利活用のあり方を考え、自らの手で改修と空間づくりを行う。

#### 空き家再生事例エクスカーション

空き家が再生され、経済活動や人々の生活が営まれている事例を体験する。

バスをチャーターし、丹波篠山を中心とした古民家利活用事例、NIPPONIA 及び伝統的建築物を見学し、最後にはまちづくりの専門家を招いたセミナーを開催している。



# 篠山 1 DAY エクスカーション

1

**8: 45**  
湊川神社前集合 → 9時出発

JR神戸駅から北へ徒歩約3分。湊川神社前集合です。バスで移動します。歩きやすい恰好でお越しください。神戸市中央区多聞通-3-3-1



2

**10: 30**  
篠山重伝建地区商家群

一級建築士才本先生の解説を聞きながら、篠山重伝建地区商家群を散策します。国の重要伝統建造物保存地区に指定されている河原町妻入商家群(かわらまちつまいりしょうかぐん)です。



3

**11: 55** 昼食 & 散策 篠山城跡三の丸西駐車場で下車し昼食をとります。



4

**13: 15**  
まちづくりセミナー@篠山城下町会館

小沢理市郎氏、金野幸雄氏、田林信哉氏3名によるまちづくりセミナーです。15時30分終了予定。終了後篠山城跡三の丸西駐車場に集合し、バスで移動します。



**小沢 理市郎氏**

会津若松市生まれ、東京都立大学工学部建築学科卒  
株式会社住信基礎研究所(現三井住友トラスト基礎研究所)等を経て株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループシンクタンク)入社。

パブリックコンサルティング第三事業部長兼首席研究員、ミドルバックオフィス統括執行役員を経て、2023年3月に退任。2023年5月に合同会社敏型研究所を設立。一般社団法人タガヤス 代表理事。  
公益財団法人未来工学研究所 研究参与、建築・不動産・金融を切り口として、都市・住宅・不動産政策、不動産マーケットリサーチ、低未利用不動産再生を切り口としたまちづくりに従事。特に、住宅金融、既存住宅流通政策、空き家問題に精通。



**金野 幸雄氏**

1955年徳島県生まれ。2014年までに、兵庫県職員、篠山市副市長、流通科学大学特任教授を務めた。専門は国土計画、景観政策、官民連携など。役所勤務の傍ら、2005年頃から古民家再生による地域再生事業をスタート。NPO法人町なみ屋なみ研究所、一般社団法人ノオトの設立と運営を経て、歴史的建築物を活用した分散型のエリア開発事業を実現した(集落丸山、篠山城下町ホテルなど)。2020年からは、一般社団法人創造遺産機構(HERITA)理事として重要文化財建造物の活用事業に、株式会社デカンショ林業コモンとして森林再生事業に取り組んでいる。歴史的資源を活用した観光まちづくり専門家会議(内閣官房)委員、日本遺産審査・評価委員会(文化庁)委員、文化審議会文化経済部会(文化庁)臨時委員。



**田林 信哉氏**

1983年和歌山県生まれ。2005年に総務省入省後、地方行財政制度の企画立案に従事。内閣府への出向や、地方自治体では山口県庁や下関市役所での勤務を経験。直近では、2016年~2017年に福島県南相馬市副市長として原発被災地からの復興に従事。2020年総務省を退職し、同年2月株式会社NOTEに入社(兵庫県丹波篠山市)し、歴史的資源(古民家等)を活用したエリアマネジメント、観光まちづくりを経験。本年4月、フリーランスで民間・行政事業構築支援、公民連携コーディネートの活動開始。現 Satoyakuba 郷役場 代表。



**才本 謙二氏**

1956年京都府亀岡市生まれ 兵庫県篠山市(現丹波篠山市)育ち  
有限会社才本建築事務所代表取締役。すまいの未来研究機構代表。  
関西大学建築学科非常勤講師(2003~2006) (2010~2014) 内閣府歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース委員、三田市文化財保護審議会委員、兵庫ヘリテージマネージャー、丹波篠山市まちなみアドバイザー、丹波篠山市空き家対策等対策協議会委員、西宮市空き家等対策協議会委員など。

5

**15: 40** 古民家再生現場視察 古民家再生現場を見学します。16時半終了予定。立町市営住宅上に集合しバス乗車。18時湊川神社前で解散予定です。

## 考えをまとめて発表する・議論する・共有する

空き家問題については、地域を歩き、実際の空き家に振れ、利活用された空き家を体験し、座学による勉強を行うことを通して、感覚として徐々に身につけていく。

しかし、所有者側（供給者側）の問題、需要者側の問題、行政及び民間事業者の問題など空き家の関わる問題には多様な側面があり、利活用を考える際にも、地域とのかかわりをどう捉えるか、など難しい側面がある。

これらのことを人に伝えることを前提として整理することは簡単ではないが、それをお題とした与え、プレゼンを行う場を用意している。

改めて自らが学び体験して感じた感情や習得した知識を整理して表現し、互いに議論することが頭と気持ちへの定着につながる。

### <具体的な取組み>

明石市材木町の古民家を題材に、複数の大学が参加して、自分たちが考える利活用のあり方についての発表会を開催した。

参加者は、参加した大学の大学生だけでなく、行政職員や地域でまちづくりを行う民間事業者など様々で多数の参加があった。

発表内容を振り返ると、「地域の価値」や「らしさ」というキーワードが着目され、古民家単体を捉えるのではなく、現在さらには将来における地域とのかかわり方を考え、それに基づいたコンセプトメイクを行っていた。

これは、すまい研の活動としては大きな成果であった。





この事業は、国土交通省の令和5年度空き家対策モデル事業の採択事業です。

# 2/6(火) アンカー神戸

Let's talk honestly about  
the future of empty houses.

小沢 理市郎氏

一般社団法人タガヤス 代表理事  
公益財団法人未来工学研究所 研究参与  
2023年5月に合同会社撤型研究所を設立

才本 謙二氏

有限会社才本建築事務所 代表取締役  
三田市文化財保護審議会 委員  
兵庫ヘリテージマネージャー  
丹波篠山市まちなみアドバイザー等

さあ、これからの  
空き家の話をしよう。

開場 12:45 開演 13:00

13:10 | 才本 謙二氏 | 『担い手不足のために  
すまい研が取り組んできたこと』

13:40 | 小沢 理市郎氏 | 『なぜ空き家なのか&人材育成』

14:20 | 大阪公立大学 | 明石市材木町の空き家改修事業に  
神戸芸術工科大学 | 1年間携わった大学生による成果発表

みんなで考える 17:00 | 参加者全員 | 建築士や不動産屋、マスコミ、大学生など、  
参加者全員による交流会 (参加費無料)



お申込みはこちら

## まちの“今”と“未来”

大学生 × まちづくりのプロ 本音トークセッション

日時 2024年2月6日(火)  
13時～19時 (17時から交流会)

場所 アンカー神戸 〒650-0001  
兵庫県神戸市中央区加藤町4丁目2-1  
神戸三宮飯倉ビル 15階

主催 / 一般社団法人すまいの未来研究機構 後援 / 株式会社神戸新聞社

お問い合わせ | 一般社団法人すまいの未来研究機構 [info@sumaiken.jp](mailto:info@sumaiken.jp) (定休日: 水曜・日曜・祝日) ホームページ <https://www.sumaiken.jp>

## 担い手としての若者の可能性

空き家が物理的な量として増えていく時代の中で、空き家から生じるトラブルを防ぎ、再生できるものは再生していく作業は人間の手により行われるが、これまでそのような意識を持つ機会や学習する機会が乏しかった大人たちに、直ぐに意識の醸成を図ることは困難である。

そこで、学習のステージにある大学生に、空き家問題の本質や、再生されるプロセス、再生された姿を体験させることで、自身が住宅を所有するステージになった際にも、高い意識のもとに住宅の管理が行える。

さらには、現時点で学んだことを家に帰って親に話したり、SNS で拡散することで、これまで意識を持ったことがなかった大人たちや若者にも伝わっていく。

このように、将来において、地域の担い手となる若者たちの意識を高めることにより、それが地域全体に波及していくことを期待している。

## 今後の展開

現在のプログラムでは、大学生を対象として、すまい研が考える空き家問題の本質や、地域の中での空き家の位置づけ、人間が行うべき行動などを伝えることを主としているが、今後は、大学生自らが「空き家を管理する」「空き家利活用のオペレーションを行う」など、地域の空き家対策のプレイヤーとして機能できる可能性について探っていきたい。

さらには、これらの取組みと大学生の活動が、大学同士や大学生のネットワークとして全国に広がり、大学のゼミ活動などで取り入れられ、各地の空き家対策が大学生の手により主導されることを期待している。

|                               |   |  |                            |
|-------------------------------|---|--|----------------------------|
| <b>■ 発行者：一般社団法人すまいの未来研究機構</b> |   |  |                            |
| 代表者名                          | 代表理事 才本 謙二  |  |                            |
| 連絡先担当者名                       | 専務理事 谷 弘一   |  |                            |
| 連絡先                           | 住所  | 〒651-2113  | 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬 1 4 5 6 - 3 |
|                               | 電話  | 0 7 8 - 9 7 4 - 1 7 3 7                                |                            |
|                               | メール   | <a href="mailto:info@sumaiken.jp">info@sumaiken.jp</a> |                            |
| ホームページ                        | <a href="https://www.sumaiken.jp/index.html">https://www.sumaiken.jp/index.html</a> |  |                            |

※事業に関してご質問等がある場合は、上記連絡先にご連絡ください。